



学校教育目標

自 ら 学 ぶ 子



「学び続ける子」「共に生きる子」「健やかな子」「浦島の子」「未来を創る子」

5月号 令和6年5月1日

## 「グローブ」の効果

校長 藁科 直希

さて、いきなりですが、10人の子どもたちが砂場でスコップを使って砂遊びをします。子どもたちに折り合いをつける力を身につけてほしい場合、みなさんならどうしますか？



折り合いをつけて遊びましょうと呼びかけますか。それぞれの子が、スコップを使いたいだけ思い切り使えるようにスコップを10本用意するでしょうか。一人ひとり自分のつくりたいものをつくるかもしれません。1本では、取り合いになり、けがにつながるかもしれません。5本であれば、2人に1本の割合となり、自然と相談しながら使ったり、何人かで協力して一緒に作業したりすることもあるかもしれません。

このように、我々教職員は、子どもたちに身につけてほしい力と、使うことのできる「もの」の量などに応じて、環境を整えるよう努めています。

大谷翔平選手が全国の小学校に寄付してくれた野球のグローブが3つあり、休み時間に体育館でグローブを使いたい子たちと一緒に、軟らかいボールを使ってキャッチボールなどを楽しんでいます。グローブは、右投げ用の大きいもの1つ、小さいもの1つ、左投げ用の大きなもの1つです。大谷選手の右投げや左投げ、手の大きさなどへの配慮が感じられます。

グローブを使い始めた頃は、グローブを使いたいという思いの強い子どもたちが多く、「5回投げたら交代ね。」「まだ使ったことない人、優先ね。」などと私がルールを提案して順番に使っていました。今では、子どもたちが自然に「あと1回やったらかわってあげる。」「初めての子に先に使わせてあげる。」「自分は左でも投げられるから、左投げ用でいいよ。」さらには、「グローブがなくても手でとれるから、グローブ使っていいよ。」など、自分のことだけでなく、他の人のことや状況を見て考え、判断できる子が増えています。大谷選手が意図したのかどうかはわかりませんが、3つの違いのあるグローブ。思わぬ力を子どもたちに育ててくれています。また、キャッチボールを通して、子どもたちは、相手の捕りやすい場所にボールを投げる、相手に合わせて投げるボールの強さを調整することなども自然と学んでいます。

子どもたちは、学校生活の様々な場面や放課後の自由な遊びなどを通して、折り合いをつける力や人とより良く関わる力、社会性などを身につけていきます。子どもたちが、自然と大切な力を身につけていけるよう環境を整えたうえで、大人が手出しや口出しをしすぎず、見守ることも大切だと実感させられる出来事でした。